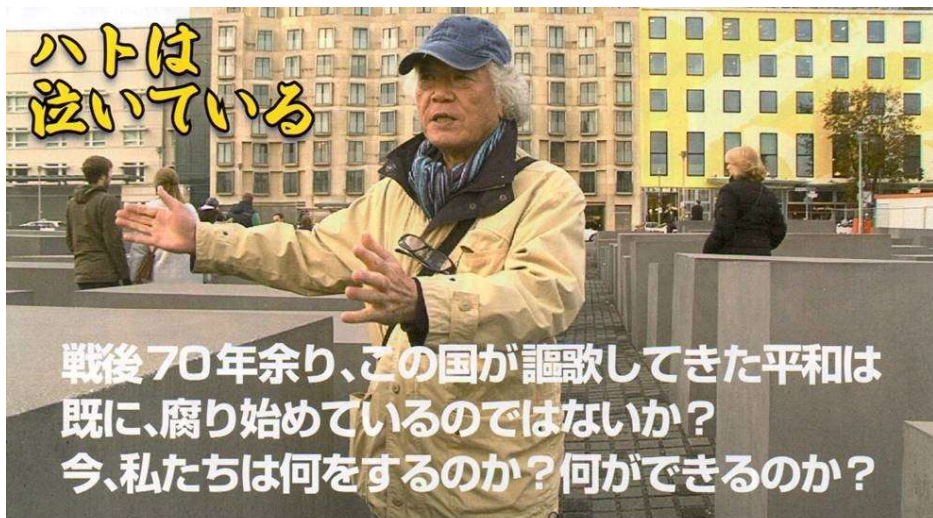


第1部 上映会

「ハトは泣いている - 時代(とき)の肖像」



本編は、2014年に相次いで起きた二つの事件のほぼ1年余りを追ったドキュメンタリー。

「都美術館事件」=同館の彫刻作家展で中塚克久氏の立体作品に添えられた現政権に批判的文言に対し右翼からの抗議、脅しを受け、館側が作品の撤去を要求。

「九条俳句事件」=さいたま市の公民館が「梅雨空に『九条守れ』の女性デモ」の句を公平中立の場である「公民館の意見と誤解される」と月報への掲載を拒否。

両事件の引き金は、改憲に向かう政権の意向を気遣う行政に蔓延する忖度である。

中塚作品はベルリンの画廊の招聘により2か月現地で展示される。作品と事件に対するドイツ人の反応は「表現の自由」侵害への危惧、「歴史の負の遺産をどう記憶し、伝えていくか」を問い続ける国の決意を鮮明にする。これと交錯するように、問題句の掲載を公民館に求め続ける俳句会員たち。彼らを支援する市民運

動は公民館を管轄する市教委の市民不在の対応を問い詰めていく。

芸術を通じた社会参加を問う彫刻家と俳句掲載を求める市民の運動は、それぞれに先の戦争の記憶にあったキナ臭さを嗅ぎとり、行政の忖度もたらす表現の自由・人権への侵害、「公平中立」の論理的破綻を露わにして行く。彼らの声は共に、この時代、過去をどう総括し、憲法九条と平和を守るために、私たちは何をするのか、何が出来るかを問いかける。



撮影：土岐省三、堀内明、谷澤彰、奥井鏡哉 ビデオ編集：星野満 音楽：T・NAMBA 歌：Mariko
ナレーション：岡部改明 企画・演出：松本武顕
制作：「ハトは泣いている」制作委員会 お問い合わせ：070-4227-1549 / 045-479-1424
予告編：YouTube「ハトは泣いている」
公式サイト：http://to-kill-a-dove.com/ e-mail：l.continua@yahoo.co.jp

第2部 トーク登壇者

岡 裕人(おか ひろと)



一橋大学大学院社会学研究科修士課程修了。89年渡独し、コンスタンツ大学大学院歴史学科で博士号取得。ベルリンの壁崩壊を見聞き、以後変革するドイツで歴史研究と教育に携わってきた。現在フランクフルト日本人国際学校事務局長、在フランクフルト。著書に『忘却に抵抗するドイツ - 歴史教育から「記憶の文化」へ』

(大月書店)、共著に『世界の歴史教育』(ゲオルク・エッカート研究所編)(独語)、『「ホロコーストの記憶」を歩く - 過去をみつめ未来へ向かう旅ガイド』(石岡史子と共著、子どもの未来社)等。

石岡 史子(いしおか ふみこ)



NPO 法人ホロコースト教育資料センター代表。命や人権を尊ぶ心、他者への寛容な心を育ててほしいと願い、ホロコースト史を教材とした学校訪問授業を行う。毎年大学生のポーランド・ドイツ研修旅行を引率。『ハンナのかばん』(ポプラ社)の登場人物、訳者。

主催 伊藤 白(いとう ましろ)



学習院大学文学部ドイツ語圏文化学科准教授。京都大学大学院文学研究科博士後期課程修了後、国立国会図書館勤務、08年京都大学博士号(文学)を取得、15年より現職。専門はトーマス・マンの文学、ドイツの図書館制度。著書に『トーマス・マンの女性像 自己像と他者イメージのあいだで』(彩流社)